
 学 会 記 事

第 29 回リバーカンファレンス

日 時 平成 17 年 3 月 5 日 (土)
午前 9 時～
会 場 日本歯科大学新潟歯学部
アイヴィホール

I. 一 般 演 題

 1 ラミブジン投与の成功により肝 siderosis の
 著明な改善をみた末期 B 型肝硬変の 1 例

大越 章吾・青柳 豊・吉村 朗*
 新潟大学第三内科
 南部郷総合病院内科*

症例は B 型肝硬変の 55 才男性例である。1988 年に組織学的に活動性の B 型慢性肝炎と診断された。年余に渡り HBe 抗原陽性、HBV DNA 高値が継続していた。肝硬変が進行し黄疸、腹水、肝性脳症の出現など非代償性の症状が出現した。ラミブジン投与開始後、HBV DNA の低下に伴い T. Bil 値、ALT/AST 値は減少し、徐々に Alb 値は上昇し約 3 年半を経た現在でも良好な QOL にて外来通院中である。本症例は投与前、肝組織における鉄染色強陽性、血清フェリチン高値、UIBC 著明低値であらわされる 2 次性 Hemosiderosis の所見を呈していたが、ラミブジン治療の奏功とともにフェリチン、血清鉄の低下、UIBC の上昇を呈し、鉄代謝の改善を示した。また CT、MR においても肝 Hemosiderotic Nodule の減少を示していた。尚 PCR-RFLP 法ではこの患者に HFE 遺伝子 (ヘモクロマトーシス遺伝子) の変異は認められなかった。

2 Adefovir 療法を施行した B 型慢性肝炎の 1 例

青木 洋平・稲田 勢介・佐藤 知巳
 波田野 徹・富所 隆・吉川 明
 新潟県厚生連長岡中央総合病院内科

症例は 44 歳の男性。肝機能障害にて入院し血液検査所見、肝生検組織所見より B 型慢性肝炎と診断された。IFN- β を投与したが無効であり Lamivudine の内服に変更した。投与開始 1 ヶ月後には HBV-DNA は陰性化し 3 ヶ月後には ATL は正常化した。しかし、Lamivudine 投与開始 16 ヶ月後に ATL の再上昇、HBV-DNA の再増加および YMDD 変異株の出現を認め、breakthrough hepatitis を生じた。そのため Adefovir 内服併用を行い、1 ヶ月で ATL は正常化し現在も正常を維持している。HBV-DNA は陰性化はしていないものの低下傾向にある。

3 当院におけるイントロン A・レベトール併用症例の検討

一 治療成績と、治療中止症例予測に関しての検討 一

瀧本 光弘・坂内 均・渡辺 俊明
 済生会三条病院消化器科

C 型慢性肝炎に対するイントロン A・レベトール併用療法について、2003 年の当会で途中経過症例を含め発表したが、その後の治療終了患者も加え、29 例を対象とし、集計解析し検討を加えた。男 13 例、女 16 例、平均年齢 58.7 歳。インターフェロン再投与例 9 例、初回投与例 20 例、HCV genotype は I b 24 例、II a 4 例、II b 1 例。治療終了例で CR 10 例、BR 3 例、NR 5 例で、中止例でも CR 2 例、BR 1 例あった。当院で以前施行したイントロン A 単独療法と比較し、治療効果は良好であった。しかし投与中止例は 11 例と単独療法と比較し頻度が高く、中止理由は全身倦怠感、貧血が多かった。

Kamer らが報告したリバビリンの全身クリアランスの算定式が、リバビリンの減量中止予測に有効と豊田が報告しており、当院でもこの算定式